

令和3年度

学校評価

自己評価書・学校関係者評価書



A: 申し分ない取り組みが行われ、十分な成果を上げている。

B: 必要な取り組みが行われ、改善に向けた成果を上げている、もしくは上げつつある。

C: 改善に向けた取り組みが見られるが、成果が不十分である。

D: 直ちに改善を図らなければならない様子が見られるが、改善に向けた取り組みに着手できていない。

大川村立大川小・中学校

項目 1	(知)教育課程・学習指導(かしこく)			
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を！		自己評価	
中長期経営目標	少人数学習を生かしたきめ細やかな小中一貫教育の充実		前年度	B
短期経営目標	確かな学力の定着と向上		本年度	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準	達成状況 <具体的取組の自己評価>	
1	<p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究主任から大川小中授業スタンダードを全教員に示し、児童同士で主体的・対話的に学び合えるようにする。 ○全教員が授業内容の定着を図るために振り返りを行う。(学習内容、感想、定着問題) ○毎時間の授業評価を生徒自信で行う。 ○加力学習(ステップアップタイム)を年間を通して実施して基礎学力の定着や各種検定にチャレンジさせ学ぶ楽しさにつなげる。 ○児童が「何ができるようになったか」を教員は理解して授業の工夫や改善をする。 ○教員の言葉遣い等を見直し、否定したり、叱るより認めて褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県学調(目標値に対し)小中共に全学年+8P ○CRT(全国比)小中共に全学年+8P ○「勉強がわかる」小中共に80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○県学調(目標値に対し)小4国+22.9、算+17.5 小5国-4.6、算+10.9、理-3.1、中1国+7.9、社+7.2、数+5.2、理+7.2、英+12.6、中2国+8.5、社-11.0、数-3.5、理-3.4、英-2.9となっている。全国比+8Pを達成できたのは小4国・算、小5算中1英、中2国だった。 ○CRTは小3年は国算、小4は理、5年は理、6年は理・社、中1・2は理社、中3は理を実施している。小3国+10、小3算+6.8、小4理+9.8、小5理-1.4、小6理+5.1、小6社+2.6、中1理+10.5、中1社+15.7、中2理-3.5、中2社-10.7、中3理+3.7である。全国比+8Pを達成できたのは、小3国、小4理、中1理、中1社だった。 ○学校生活アンケート6月と11月の2回実施。「勉強が分かる」肯定的回答小学校88.5%、中学校は84.3%であった。 ○埼玉県版学力テストでは各個人の経年データから判断すると、傾向として各個人の学力の向上は図られている。低学力の児童生徒に対してのより一層の学力向上に向けた手立てが必要である。 	<p>自己評価 B</p> <hr/> <p>関係者評価</p> <p>B</p>
2	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表集会、のびのびタイム、地域の行事への参加、生活総合学習等の取組を通してコミュニケーションを主体的に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションアンケート「自分の考えや意見を他の人に伝えることが楽しい」小が90%以上、中が目標70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションアンケートの「自分の考えや意見を他の人に伝えることが得意」について、肯定的回答が小学校92%、中学校80%で小学校・中学校共に目標値を超える事ができた。 	<p>自己評価 A</p> <hr/> <p>関係者評価 A</p>
3	<p>【ICT】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、わかる楽しいと感じさせる授業の工夫や改善を全教員で取り組む。 ○ICTを活用した家庭学習のあり方を校内で研究を行い、各学級で取り組む体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用アンケート(伝えられる)小が90%以上、中が目標80%以上 ○ICTを活用した家庭学習の充実を小中共に100%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用アンケートの「タブレットを使うと自分の考えや意見を分かりやすく伝えられると思いますか」で、肯定的回答が小学校100%、中学校73%で、小学校は全員が肯定評価となった。中学校は目標に達しなかったが、昨年より6%数値が改善し向上の兆しが見られる。 ○ICT活用アンケートの「タブレットを使つての家庭学習に関する設問」6問の肯定的回答の平均が、小学校96%、中学校が69%で、目標の100%を達成できなかった。昨年度に比べ小学校は12.3%、中学校では33.3%改善されている。今後も改善を図りたい。 	<p>自己評価 B</p> <hr/> <p>関係者評価</p> <p>B</p>
改善 方 策	<p>【学力向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容の定着を学期ごと等定期的に確認する体制を作り、学年ごとの定着がしっかりできるよう取り組む。 ・授業改善のための教員研修を充実させる。 ・個人差も大きいので、一人一人にきめ細かな指導をする。(加力など) <p>【ICTについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した伝える場の設定、改善の工夫をする。 		<p>関係者評価 講評</p> <p>ICT活用について、教職員研修を毎年継続して活用できるようにして欲しい。子どもたちに対しても、新しく入ってくる子どもたちに対する支援の継続も。機器の使い方も大事だが、対面のコミュニケーションも大事にしていく。両方の良いところを活用し、実践して欲しい。</p> <p>基準が県版、CRTと数値だけで判断するのではなく、少人数で個別指導でやっているの、個人で見ても去年と比べてどうだったのかということが分かるような記載がされていると、大川小中学校に来てどうだったのかということが具体的にわかるだろう。環境的なものなのか、能力的なものなのか、そういったことを見ることのできる報告をしてもらえると伸びたのか伸びてないのか、成果課題がより見えてきて、次につなげていけるだろう。</p>	

項目2		(徳)心の教育(やさしく)		評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を!					
中長期経営目標	豊かな心の育成			前年度	B	B
短期経営目標	思いやる心を言葉や行動で表し、自尊感情の高い子どもや共に伸びる仲間集団の育成			本年度	B	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【道徳教育】 (小中共通) ・全教員による道徳授業の実施	(小中共通) 道徳アンケート(肯定的評価):全項目:90%以上	(小)…道徳アンケート(全10項目)で肯定的回答90%以上は9項目だった。項目3:「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む 高知の道徳』を読んだりしている。」が61.6%だったので、家庭でも道徳について考える方向を探っていきたい。 (中)…道徳アンケート(全10項目)で肯定的回答90%以上は4項目だった。6項目が指標に達成していない。特に課題であるのは家庭で道徳の話題について話すことや自己肯定感、社会貢献の分野での意識向上を図る取り組みが必要である。	自己評価	B	関係者評価 B
				関係者評価	B	
2	【生徒指導の充実・いじめ防止】 ・学期に1回の学校生活(いじめ)アンケートの実施 ・hyperQU年2回実施 ・相談体制の充実 ・特別な支援を要する生徒を含む生徒理解のための定期的な支援会の実施 ・SCの定期的な面談 SSWの効果的な関わり	(小中共通) ・学校評価アンケート(肯定評価)「学校生活が楽しい」生徒・保護者:100% ・いじめ発生0, 解消率:100% 3 Q-U要支援群児童生徒:0名	○学校評価アンケートで、「学校が楽しい(楽しそう)」の肯定的回答が、児童生徒97%、保護者100%であった。 ○いじめ発生は(小)2件、(中)3件。全ての案件は問題解決しており、解消率は100%である。 ○Q-Uは5月と11月の2回実施。要支援群は11月の調査で中学生に1名いるため、支援を行っていく。 ○SC・SSWは全児童生徒への個別面談を実施し実態把握に努めた。また、SC・SSWは留学センターへ訪問するなど関わりを深めた。	自己評価	B	関係者評価 A
				関係者評価	A	
3	【図書・読書活動】 (小中共通) ・読書習慣による豊かな心の育成を目指し、読み聞かせ(地域の方、保小中連携)や授業で図書の活用や朝読書の貸し出しを行う	(小) 図書貸出数一人(低)80冊、(中)50冊、(高)30冊以上 (中) 図書貸出総数200冊以上	○図書の貸し出し冊数について (小)学校図書の貸出数は2学期までの集計で、一人あたり低学年(1年生)67冊、中学年(3・4年生)21冊、高学年(5・6年生)17冊とそれぞれ目標に届いていない状況である。 (中)学校図書の貸出数は2学期までの集計で421冊と目標値の倍の冊数となり読書の習慣が身につけてきている。 ○保小中連携による読み聞かせは小3・4年生の保育交流や中学3年生が家庭科の保育実習で行った。その他、中学2年生のふれあい体操を行ったり、園児がハロウィンで訪問しにきたりと園児にとって楽しい時間となった。 2については、いじめ案件については随時早期対応を行い、解消100パーセントということでAで良いと判断される。学校生活と学校外での子ども達の様子は違うこともある。学校としても、解消100パーセントということで終わったということではなく、継続した指導をしてほしい。 貸し出し冊数については、読書が好きになるような機会(移動図書、読み聞かせ)があることで、効果が出てきていると思われる。	自己評価	B	関係者評価 B
				関係者評価	B	
改善 方 策	【道徳教育について】 ・自尊感情の向上につながる取組をする。(縦割り班の活用など) 【生徒指導の充実・いじめ防止】 ・SC,SSWを効果的に活用した生徒指導の充実を図る。 【図書・読書活動】 ・図書の貸し出し冊数について、低学年と中学年では読む本の内容が変わってくることもあり、学年の発達段階に応じた冊数の設定をする。(低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊など)		関係者 評 価 講 評			

項目 3		(体)健康・体力(たくましく)		評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標		大川村に夢と希望と感動を!				
中長期経営目標		健やかな体の育成		前年度	B	B
短期経営目標		よりよい生活リズムや運動習慣を身につけ、体力と技能の向上		本年度	B	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	【健康教育】 (小中共通) ○保小中の生活調べを年2回実施する。結果は通信で発信する。 ○生活リズムの学習を実施する前後に行う。 ・学校評価アンケート「生活リズムをに気をつけ、規則正しい生活をする」90%以上 ○保護者への啓発便り・評価表	(小中共通) ○学校評価アンケート「生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をする」90%以上を目指す。	○学校評価アンケート「生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をする」の肯定的回答は、児童生徒で91%、保護者で82%であった。 ○生活リズム調べは年2回、保小中で取り組んでおり、結果については保護者向けのお便りを配布して、生活リズムの重要性について啓発している。また、小中学生については結果を個別のシートを作成して啓発している。また、タブレットを活用して夏休と冬休みに生活リズムが乱れないよう日々の記録を提出させ、養護教諭がコメントを返す取組を行った。	自己評価 B		
	関係者評価 B					
2	【運動能力】 (小中共通) ○体力づくりの充実 ・体育授業(中学校は部活動含)で年間を通して、計画的な体力づくりを行う。 ・全国体力運動能力調査結果が男女ともに体力合計点が全国値を上回る。	健やかな体の育成 ・(小)全国体力運動能力調査 男・女:体力合計点が全国値を上回る。 (中)男子:全種目全国値を上回る。 女子:8種目中4種目を全国値を上回る。 ・水泳大会・マラソン大会・運動会など体育行事に向けた取組みで体力向上を図る。	○全国体力運動能力調査の個人データはまだ公表されていないため、全校児童生徒が実施した新体力テスト(8種目)の結果について記載する。 小学校では平均値以上が確定しているB判定以上の人数が8名であるため、トータルで全国平均を上回っているものと考えられる。 中学校では平均値以上が確定しているB判定以上の人数が8名であり、平均値付近の人数が5名であることから、トータルで全国平均を上回っているものと考えられる。 令和3年度 (小) A判定…1人、B判定…7人、C判定…4人、D判定…0人、E判定…1人 (中) A判定…1人、B判定…7人、C判定…5人、D判定…2人、E判定…0人 ○コロナ禍の中、学校行事(体育的行事)は、水泳大会、運動会、マラソン大会と実施することができた。それぞれに向けた取組により、体力の向上を図った。	自己評価 A		
	関係者評価 A					
改善 方 策	【健康教育】 ・生活リズムについて、保護者の啓発をタイムリーに行っていく。 ・児童生徒については、自律心を育成する教育活動を行う。 【運動能力】 ・各種目のうち、点数が低いもの(ボール投げ、シャトルラン)について、授業や部活動、日常生活で積極的に取り組む。	関係 者 評 価 講 評	子どもはスクースバス、小松の子は歩いてきているが、昔から言うと、長い通学距離ではない。歩くということが少ない。以前はかなりの山道を歩いて通学していたので体力も自然についていたと思う。条件の悪い中で、これだけの良い結果が出ているということは、かなりの努力をしていると判断できる。			

項目4		評 定	自己評価		関係者評価	
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を！		前年度	A	A	
中長期経営目標	よりよい学校を通してよりよい大川村を創る		本年度	A	A	
短期経営目標	学校と地域が協働・連携によるチーム大川で、教育活動を充実させる					
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1 学校運営協議会の開催と充実 2 PTA活動の充実 3 学校だよりCSだよりの発行、HPの充実 4 地域の伝統芸能保存活動支援 5 地域と学校が合同防災訓練 6 キャリア教育支援 7 生活・総合学習の支援 8 部活動の支援 9 生産学習への協力 10 食育支援 11 学校図書ボランティア活動 12 放課後子ども教室への支援 13 児童生徒との意見交換会の実施 14 義務教育学校に向けた特色ある学校づくりを推進するための体制整備	1 年間6回の学校運営協議会の開催(全教員との協議1回以上) 2 学校行事への協力と環境の整備・愛校作業(年間2回)、運動会、校内マラソン大会の補助、人権の花植 3 学校だよりの週1回発行、CSだより月1回発行及びHPの更新 4 謝肉祭で「花取り太刀踊り」を全児童生徒で披露できるよう保存会に指導を依頼する 5 村防災総合訓練に参加する 6 職場体験を地元の事業所に依頼する。事後には成果等の発表会を開催する 7 生活科、総合的な学習を深めるために地域の方から学ぶ 8 バドミントン部への技術的支援 9 梅、お茶、椎茸の生産や販売の支援 10 地元の食生活改善推進員による食育への支援 11 朝読書に地域の方の読み聞かせを月1回実施 12 放課後子ども教室でスポーツ、伝統芸能活動支援 13 学校運営協議会で児童生徒と意見交換会を1回以上行う 14 先進的な義務教育学校の視察及び学習会の実施	<p>1 第2回については、教職員と協議会委員が3つのグループ(総合・特産物・保小中)に分かれ、ワークショップ形式で年間の活動について確認し、共有することができた。</p> <p>2 愛校作業の参加者6月91人、運動会ではコロナ対策として受付の協力をしていた。マラソン大会では、交通安全に10名、一般ランナーとして5名が参加があった。人権の花植もマラソン大会に引き続いて参加していただいた。</p> <p>3 学校だよりは週一回発行をし、現在34号(1月13日現在)ている。CSだよりは3月末までに6号発行予定。(現在4号) HPの更新は(1月13日現在)公式HPが100回、会員制HPが210回となっている。</p> <p>4 謝肉祭は中止となったが、伝統芸能「花取太刀踊」をキラキラフェスティバルで発表した。練習には保存会の方々4回来ていただき、歌い手の指導も児童生徒たちでできるようにご指導いただいた。</p> <p>5 6月18日の村防災訓練に参加し、地震を想定した避難訓練、煙ハウス体験、消火訓練を全校で行った。AEDを使った救急法講習を中学生が体験した。</p> <p>6 職場体験は7月8日、9日の2日間、中学2年生5名が4事業所で実施した。(JA、つぼみ保育所、ふるさとむら公社、社会福祉協議会) 実施後、9月29日に職場体験発表会を行った。2事業所より参加があった。1月15日には平賀さん、山中さんに来校していただき、ふるさと村公社や山中農園の話を7・8年生に聞かせていただいた。</p> <p>7 生活科・総合的な学習にゲストティーチャーとして計18の個人・団体の協力を得て学習を深めることができた。</p> <p>8 バドの技術支援に10名の地域の方々が協力してくれた。</p> <p>9 特産物について、茶畑の下草刈りや剪定、茶煎り、しいたけの栽培場所の整備などで地域の協力を得た。</p> <p>10 食生活改善推進員による食育の取組は3回実施した。1回目は6月の愛校作業時の啓発活動。2回目は11月26日に5・6年生家庭科での野菜deビザの調理実習。3回目は12月3日に中学1年生の蒸しまんじゅうの調理実習を行った。</p> <p>11 毎月第2水曜日、朝8:10~15分間程度、地域ボランティアによる読み聞かせを実施している。小は毎月、中は学期に1回。コーディネーターが季節に合った本選びをしてくれている。</p> <p>12 放課後子ども教室では、バドミントン、太鼓、昔遊び、花取太刀踊りなど、様々な活動支援をいただいている。</p> <p>13 第3回学校運営協議会で児童生徒との意見交換会を実施した。児童生徒会の要望がかなうように委員さんが学校や教育委員会へ助言をしてくださった。</p> <p>14 先進校の大原学院について元校長の石飛先生が講師となりZOOMでの研修会を8月26日に行った。また、先進校視察として、高知市の土佐山学舎に4名が出向き研修を深めてきた。</p>			自己評価 A	関係者評価 A
					改善 方 策	